

肥料
粒状

土づくり

農薬
粉・防散

石灰窒素



<粒状品>

保証成分

窒素全量 20%
アルカリ分 55%
カルシウムシアナミド 55%

<水和造粒品>

保証成分

窒素全量 20%
アルカリ分 50%
カルシウムシアナミド 40%

<粉状品>

保証成分

窒素全量 21%
アルカリ分 55%
カルシウムシアナミド 50%



国産石灰窒素は…

肥効調整型肥料



エコファーマー認定用の肥料として使えるようになりました。

石灰窒素の特長

- 土壌によく吸収されるので肥効が長続きし、作物の吸収効率が高まる。
- アンモニア態窒素から、硝酸態窒素にはゆっくりと変化します。
→ 硝酸化が遅いので、肥効の持続が期待できます。
- 土壌や作物に残留性がないソフトな農薬効果を発揮!
- 有効成分(窒素・石灰)が高く、無駄な成分が少ない!

供給  JAグループ

製造  片倉コープアグリ株式会社

適用病害虫・雑草名と使用方法

【粒状・粉状・防散】

※「野菜類」には豆類(未成熟)が含まれます。

作物名	適用病害虫 雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	石灰窒素を含む 農薬の総使用回数	
水稲	ユリミミズ	40~60 kg/10a	は種前 又は植付前	1回	散布後土壌混和	—	
	ザリガニ スクミリンゴガイ	20~30 kg/10a	植代前		散布 荒起し後3~4cmに湿水し、3 ~4日後全面に散布、3~4日放置後植 代を行う。(漏水を防止すること)		
	スクミリンゴガイ		刈取後 (水温15℃ 以上の時期)		散布 3~4cmに湿水し、1~4日後全 面に散布、3~4日放置する。(漏水を防 止すること)		
	水田一年生雑草	50~70 kg/10a	は種前 又は植付前		散布		
	ノビエの休眠覚醒 (湿田及び半湿田)	40~50 kg/10a	水稲刈取後 1週間以内		全面散布		
れんこん	スクミリンゴガイ	60~100 kg/10a	植付前		散布後土壌混和 (7日間以上放置後植付を行う)		
野菜類 豆類 (種実) いも類	センチュウ類	50~100 kg/10a	は種前 又は植付前		散布後土壌混和		
	一年生雑草	50~70 kg/10a	は種前		散布		
麦類							
はくさい キャベツ	根こぶ病	100~200 kg/10a	は種前 又は植付前		散布後土壌混和		
桑	カイガラムシ類 胴枯病	温湯10ℓ 当り 400~800 g/10a	7月下旬~ 10月上旬	上澄液を株又は枝条の 基部に散布する。			

【粉状・防散】

作物名	使用目的	使用量		使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	石灰窒素を含む 農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
ばれいしょ	茎葉枯凋	10~15 kg/10a	100ℓ/10a	茎葉黄変期	1回	茎葉散布(上澄液)	—
			—			茎葉散布	

※平成25年7月現在の登録内容です

肥料効果

緩やかな肥効	石灰窒素は、土壌中でアンモニア態窒素となった後、硝酸態窒素にゆっくりと変化します。また、有機質肥料や堆肥と併用することで、有機質由来の窒素が徐々に硝酸化し肥効が長くなります。
成分の流亡が少ない	石灰窒素は、土壌中でアンモニア態窒素に変化しますが、石灰窒素からのアンモニアは土壌によく吸着されるため流亡が少ないという特長があります。

土づくり効果

目的	使い方	期待される効果など
促成堆肥の製造	稲わらを水でよく濡らし、その上から石灰窒素をまく。これを繰り返して積み上げた後にビニール等で覆う。	発熱が良く、成分の高い堆肥を作ることが出来ます。
未熟有機物の腐熟促進	ソルゴー、トウモロコシなどの青刈り作物と一緒に石灰窒素をすき込む。	有機物の腐熟を早め、土壌を総合的に改善することが期待できます。
酸性土壌の改良	全面に散布し、散布後直ちに耕うんする。	土壌の酸性を直し、カルシウムとして作物に吸収されます。

●使用上の注意

- ・播種または定植にあたり、7~10日前に散布し、土とよく混ぜて下さい。
- ・施肥作業後、24時間以内は飲酒しないで下さい。

☆詳しい使い方については最寄りのJAにご相談下さい。